

Title	造船業における事業展開と企業成長
Sub Title	
Author	倉本一宏(Kuramoto, Kazuhiro) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1988
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1988年度経営学 第597号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0597

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

造船業における事業展開と企業成長

わが国造船業は、長期的な需要の低迷の中で、急激な円高ドル安の進行、新興工業諸国の台頭などにより国際的競争力を失いつつあり、国際的なプロダクト・ライフサイクルの移転という問題に直面している。本研究では、こうした問題を抱えたわが国造船業が今後進むべき方向性を探ると共に、プロダクト・ライフサイクル上、成熟化・衰退化段階を迎える主事業をもつ企業の経営戦略のあり方について検討を行った。

成熟・衰退産業に身をおく企業が、新たな企業成長を達成するためには、これまでの企業活動の中心であった「製品－市場」を変革していく必要がある。国際的プロダクト・ライフサイクルが移転しつつある産業において、企業がその活動を特定地域、特定事業に限定すれば、その企業は限定した地域における事業のライフサイクルに沿って成熟、衰退していく可能性が強い。本研究では、成熟段階にある「製品－市場」を中心に活動する企業の成長戦略として「製品－市場」を拡大する(1)多角化、ヴァーノンのプロダクト・ライフサイクル論から導かれた(2)企業活動の国際化、という2つの戦略に焦点を当てることとした。

本研究では第1に、造船業を歴史的に考察することから、本産業における国際的競争力の源泉とは何であるのか、そしてわが国造船業が、今後とも長期的な国際的競争力を維持するための戦略を企業活動の国際化を中心に検討した。第2に、わが国大手造船企業は、同じ造船という中核的な事業から発展したにも拘らず、現在ではその事業内容、業績に大きな格差が生じていることを指摘し、これまでの各社の成長要因に関する分析を行った。そして第3に今や、総合重機械企業に変貌を遂げようとしているわが国大手造船会社の多角化についての分析を試み、今後の経営戦略に関する方向性を示唆した。